

件名：もんじゅの原子炉「心臓部」最重要配管も点検漏れ 規制委検査で判明
平成 27 (2015) 年 3 月 25 日 東京新聞 夕刊 (2 面)

記事概要

- もんじゅは原子炉の冷却配管類など、重要な設備でも点検を適切に行っていなかったことが保安検査で判明したと、原子力規制委員会で報告された。
- 問題点は二つ。配管の劣化を詳しく分析するには、ナトリウムを配管から抜いてデータを取得するよう定められているのに、十分に分析していなかった。もうひとつは、配管の厚さを計測して劣化を点検する手順になっていたのに、外観検査だけで点検済みとしていた。
- これらは、いずれも原子炉の安全性を保つうえで最も必要とされる「クラス 1」の配管で、ずさんな管理、手抜きは原子炉の心臓部にまで及んでいた。
- 原子力機構の担当者は「(一昨年から) 保守管理体制の見直しを進めてきたがまだチェックの仕組みが完全に浸透、定着していなかった」などと釈明している。

事実関係

- 本件は、3 月 25 日の原子力規制委員会における質疑応答の中で、平成 26 年度第 4 回保安検査 (平成 27 年 3 月 2 日～20 日) において指摘されたことが、原子力規制庁により言及されたものです。
- 今回の保安検査における不適合管理の状況説明の中で、配管の劣化については、数十年程度経過しても材質、使用条件等により腐食の影響が極めて小さいことを説明しましたが、現状の外観点検では不可視部の識別や評価方法を明確化していないことを機構自ら確認したことについて規制庁より指摘を受けたことは事実です。今後、識別を行って評価方法を明確化した上で再度点検を実施することとしました。
- 同様に、配管の厚さ測定に関して、自らも確認した課題について保安検査において指摘を受けたことは事実です。これに対し、これまでの外観点検において異常がないことから実施していないことを説明しました。指摘を踏まえて、今後、この劣化の状況を確認するため、4 月に測定を実施する計画としました。
- これらの配管は、「クラス 1」機器であることは事実です。

機構の基本的考え方

- 全役職員で「もんじゅ」の目的と使命を再認識し、安全を第一に不断の改善・向上を継続していきます。
- もんじゅは、現在、自立的な PDCA を回して組織文化として改善活動を定着させていくところであり、今後も「安全を大前提に気づけば躊躇せず直す」を原則に、これらの配管を含め、機器の再点検や技術的な健全性評価を確実にかつ速やかに実施していきます。